

## 医療的ケア児

医療的ケア児とは

「医療的ケア児」について、「保育所での医療的ケア児支援に関するガイドライン」（令和3年3月）では、「日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児」を指すこととしています。「医療的ケア児」は、日常生活の中で長期にわたって継続的に医療行為が必要な状態にあることを指した概念で、一人ひとりもっている疾患や障害は異なり、移動や運動、会話やコミュニケーションの仕方も異なります。具体的な例を挙げると、喉（気管）に呼吸を補助する機器のチューブを付けたり、腹部（胃）に食事をとるための窓を付けたり、定期的にたんの吸引を必要とする子どもたちです。しかし、「医療的ケア児」は特別な子どもではなく、医療的なケアを必要としている普通の子どもであることを認識してほしいと思います。

医療的ケア児を園が受け入れるために

「医療的ケア児」を受け入れる場合は、子どもの主治医やその他の保健医療関係者に随時連絡を取り、作成した保育計画・支援計画や個別のケアマニュアル等に対応します。

その他の子どもには、「医療的ケア」について説明します。幼児（4歳・5歳児クラス）になるとケアの内容を理解し、「医療的ケア児」を手助けする様子も見られるようになります。たとえば、経管栄養のチューブや気管カニューレ等を装着している場合は、それらに触れることのないように説明する必要がありますが、大人が心配するよりも子どもたち自身がその重要性を感じながら接するようになります。「医療的ケア児」が保育を利用することで他の子どもたちにもさまざまな変化が生じます。子どもたちの体験や気づきが「障害のあるなしに関わらずだれもが暮らしやすい社会」（インクルーシブ社会）の学びの一步につながります。また、「医療的ケア児」と他の子どもたちとの関わりを支援することで、質の高い保育を提供することが期待されます。

これまで「医療的ケア児」は、専門性のある機関でしか対応できず、地域から離れた場所で生活をしてきました。そのために医療的ケア児に出会ったことがないまま社会人になっている現状があります。ようやく、医療的ケア児を含む多様な人々との共生社会を築いていく時代になってきたといえます。

**「保育所での医療的ケア児支援に関するガイドライン」より**

はじめに

すべての子どもが一緒に生活することをあたりまえにしなければならない

「一緒に生活する」とは、どういったことを指すのであろうか。まず、同じ場

に所属することが大前提となる。次に、体験を共有することである。同じ場で生活する中で同じことを体験し、それが自然と共有される。そして、感情を共有することである。同じ場で生活する中で体験を共有し、「楽しかった」「嬉しかった」「悔しかった」「悲しかった」といった感情を分かち合う。最後に、明日を共有することである。同じ場で生活する中で体験を共有し、感情を分かち合うことで、「明日は一緒に〇〇をしたい」「〇〇をしたら、きっと楽しい」というように共にいる明日を想像する。このように、乳幼児期から「一緒に生活することがあたりまえ」になれば、むしろ「いないことに違和感を覚える」という社会が展望できるだろう。

2022.12.25 あきやまこどもクリニック 秋山千枝子